

国際大学

国際大学は、上越新幹線で東京から1時間40分、越後三山を望む魚野川流域の盆地にキャンパスがある。ネットワークを有効に活用すれば、地方の大学でも情報ギャップを克服して高度な教育・研究活動ができるモデルケースともなっている。イントラネットやインターネットに積極的に取り組んでいるということで、編集部がさっそくキャンパスを訪ね、Web管理者のRory Lysaght氏、講師の毛利勝彦氏、松下図書・情報センターの対馬俊彦氏とMary-Beth Clarkさんに話をお聞きした。



国際大学 URL <http://www.ij.uj.ac.jp/>

プロフィール

所在地
新潟県南魚沼郡大和町大字六地新田
沿革
国際舞台で幅広く活躍できる人材の育成を目的に1982年に設立された大学院大学。建学には経団連会長だった土光敏夫氏や外務大臣を務めた大来佐武郎氏がかかわる。

授業はすべて英語で、海外からの留学生が6割、企業派遣を中心とする日本人学生が4割という、日本では異色の大学。専攻は国際関係学研究科と国際経営学研究科の2分野からなる。

学生数
学生数：218人
(1995年9月現在39か国)

ネットワーク環境
東京にある同大学の研究所グローバルコミュニケーションセンター(GLOCOM)と512Kbpsで接続。学内は光ファイバーによるLAN(155Mbps)が構成されている。

国際大学のネットワーク環境と施設についてお聞かせください。

松下図書・情報センターがネットワークの中心的な機能を果たしていて、ここにルーター、ATM交換機、各種サーバーが設置されています。また、24時間利用できるMacルーム(40台)とPCルーム(インターネットに接続されたWindows95マシンが34台)があって、全学では130台ぐらいがインターネットに接続されています。

図書館の机にネットワーク用の端子が出ていますが、これはLAN用ですか。

これは10BASE-Tのソケットで、自分のノートパソコンを持ち込めばここから学内のLAN、そしてインターネットにアクセス

できます。キャンパス内にある学生寮にもコンピュータールームがあってインターネットが利用できますし、寮の個室からダイヤルアップで接続することもできます。



図書館の机には10BASE-Tのソケットが用意されている。

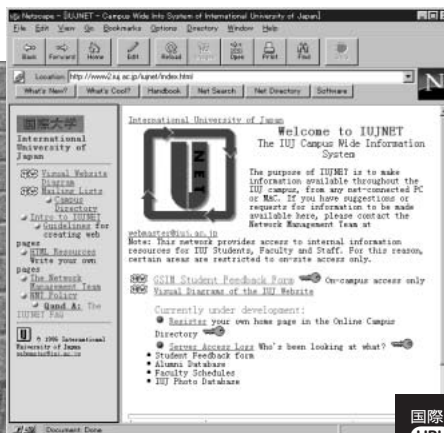


国際大学ではイントラネットをさかんに活用されているようですが、学生向けにどのようなサービスを提供していますか。

学生向けのサービスとしては、各クラスの提出課題についての情報を流しているほか、本の予約システムも構築中です。Electronic Reserve Systemというものを開発して、著作権がクリアになっている資料



Web Masterを務めるRory Lysaght氏
(Photo © Chris Buck)




国際大学の学内情報システム
URL <http://www2.ij.uj.ac.jp/ijunet/index.html>

を学内用に流し始めようとしています。こうすれば予約の順番待ちをする必要もなくなり、いつでも閲覧できます。

シラバス(講義要項)や学生個人のホームページも公開していますが、こちらは外部からでも見ることができます。

今、学生サービス・センターが中心となって取り組んでいるのが卒業生のネットワーク作りです。世界に広がっている人脈を活かさない手はないですから、名前から現在の連絡先や勤務先を検索して連絡が取れるようにしていきます。学生の募集でも、海外からの問い合わせの5パーセントがインターネットのホームページで国際大学を知ったそうです。発展途上国からの留学生も多いので、日本での奨学金情報も掲載するようにしています。願書の受け付けもインターネットでやりたいのですが、個人情報のセキュリティの問題があるので、難しいですね。


 文化もバックグラウンドも異なる学生がネットワークを共同利用しているわけですが、何かトラブルはありますか。

異文化との交流というと美しいですが、対立やトラブルから学んでいくということもあるんです。その点で、東京から離れた田舎に全寮制の大学がある意味があると思います。アメリカ人の学生に国際大学で何を一番学んだかと聞いたところ、ambiguity(曖昧さ)だと答えました。おそらくアジアの文化に触れてそう感じたのでしょう。それはその学生なりの異文化体験だったわけです。「臓器移

植」をめぐるアメリカ人と中国人の論争が起こったり、電子メール上でフレーミング(非難・中傷合戦)のようなことも起こります。まさに国際社会の縮図ですね。最近ではホームページについて、最新技術優先派とコンテンツ重視派とでもめているようです。でも、そうしたことをうまく調整できなければ、海外で共同作業をしたり人を使ったりすることもできないわけですから、よい準備になっていると思います。




松下図書・情報センター内のネットワーク装置。ルーター、ATM交換機、光ケーブルネットワーク、ダイヤルアップ用モデムなどが設置されている。

 授業中の教室を覗いたら「情報化時代の外交と情報」という講義が行われていましたが、情報関連の授業にはほかにもどのようなものがありますか。

あの授業は「情報文明論」というコースで、GLOCOMの公文俊平先生、会津泉先生、放送教育開発センターの浜野保樹先生、アスキーの西和彦社長も講義に来ていただきました。通常のカリキュラムでインターネットに関連するものには「リサーチ方法論」や「データベースマネジメント」、マルチメデ

ィア関係の講座があります。授業によってはホームページの制作もプロジェクトの1つとして取り入れています。それで自己プレゼンテーション能力を測ろうというわけです。ホームページは誰でも自由に作るができます。就職のために、企業に自分を売り込むホームページを作っている学生もいますが、最近では逆に学生が企業側からホームページを作るように求められたケースもあります。

 地方にいることによる情報ギャップのようなものは感じていますか？

東京から離れているので、満足な本屋もないのですが、インターネットが入ってからはかえって研究に集中できるようです。研究のための情報に関しては、Lexis/Nexis(参考情報: <http://www.lexis-nexis.com/>)というサービスを導入して以来、そうした情報ギャップは感じなくなりました。これは海外の雑誌、新聞、学術誌などに発表されたビジネス、国際ニュース、法律関連の記事のフルテキストが読める有料データベースサービスで、学生はPCルームにある端末から自由に利用できます。その記事は契約で90日間に限り大学のイントラネットのデータベースに置くことになっているので、教師がコピー機を使わなくてもすべての学生に読ませることができます。

国際大学は海外の大学と同じく9月が新学期です。それに合わせて学内のイントラネットとインターネット環境を今後さらに改善していきたいと思っています。



学生寮から望むキャンパス



図書館のオンラインサービスを担当するレファレンス・ライブラリアンのMary-Beth Clarkさん



24時間利用可能なコンピュータ施設



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp